

## 第 29 回経済・財政一体改革推進委員会「重点課題の見える化の推進等について」 -国民皆保険制度下の「データヘルス」による見える化および横展開-

### 1 「データヘルス」の特長

- 全国の自治体・職場における健康課題が見える化、課題解決策の横展開が可能に
  - 2005 医療制度改革大綱；「特定健診制度」による健診データの電子的標準化は“世界初”
  - 2013 日本再興戦略；予防・健康管理の新たな仕組み「データヘルス計画」で見える化が実現
- 人生 100 年時代に寄り添う医療の確保と予防の重視
  - 目指すのは国民の健康長寿のための**資源の最適化**
  - 医療費・疾病リスクの構造化による資源配分                   cf. A 県国保・後期高齢 138 万人での検証

### 2 「重症化予防事業」の横展開に必要なこと

#### (1) データヘルスによる“標準化”

- **評価指標の“標準化”**がポイント
  - 同じ評価指標で事業効果が定量的に測定され、全国で比較が可能に
  - 各地域・職場の健康課題を解決するノウハウが蓄積し、解決策（方法・体制）がパターン化
- 「データヘルス・ポータルサイト」の全保険者への適用   cf. 「データヘルス・ポータルサイト」での検証
  - 健保組合は 100%；今後は協会けんぽ、共済組合、国民健康保険

#### (2) 横展開のための“処方箋”

- これまでの横展開の落とし穴
  - 従来の好事例集は得意なことが抽出されがち⇒真に欲しいのは課題解決メニュー
  - 市町村の独自性が生かされにくい⇒**市町村の特徴に応じた“処方箋”**が必要
- 横展開のための“処方箋”の考え方
  - 組織の特徴；人口規模、人員体制、就業構造、健康課題、地域資源
  - 事業の進捗・共創ステージ；特定健診・特定保健指導の実施率、庁内・医師会との連携

### 3 見える化および横展開への示唆

- インセンティブでは事業の実行性を上げる「運営基盤」（共創体制）の構築を評価する
- “標準化”と“処方箋”のセットで事業の効果と運営の効率を上げる